

部署・職名 血液・免疫・感染症内科・教授
氏 名 竹中 克斗

研究課題	地域医療におけるCOVID-19感染拡大防止への取り組み
------	------------------------------

1. 研究概要

愛媛県における新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感染状況は、2020年3月2日に初感染が確認されて以来、2021年2月4日まで1000人の感染者が発生している。当院は感染症指定医療機関として重症患者を中心に診療を行っている。第1波後の調査では当院外来患者1000人中1人が陽性であり、病院職員743人は全員陰性であった（全体陽性率 0.057%）。愛媛県では2020年11月から第3波の患者数が急増し、2021年1月にピークを認めている。院内感染対策は、これまで同様の対応を行っているが、当院外来患者および当院職員における新型コロナウイルス抗体保有者の頻度調査を行い、流行状況を経時的に把握するため、当院外来患者および医療従事者における抗SARS-CoV-2抗体保有者の頻度調査（2回目）を行い、今後の流行に備えることとした。2020年12月に、血液検査が実施された外来患者および健康診断で血液検査が実施された医療従事者を対象として、自動機器を用いて当院で抗SARS-CoV-2抗体を測定した。

2. 研究成果・進捗状況

調査期間は、2020年12月8日～11日、対象者は当院外来通院中で血液検査が実施された患者および健康診断で血液検査が実施された当院職員で、外来通院患者1,000人、当院職員407人（ともに無作為に抽出）で、血清抗SARS-CoV-2抗体を測定した。本研究は、当院臨床研究倫理審査委員会で承認され、検体はいずれも匿名化し個人情報に十分配慮した。結果としては、外来患者 1000人および病院職員 407人中陽性者は0人であった。同時期の他県の調査では、陽性率は0.1～0.9%で累積感染者/人口はどの都道府県も10倍以上上昇し、抗体陽性率は3～9倍上昇しているが、当院では抗体陽性率の上昇は見られなかった。感染症指定医療機関である当院の病院職員の感染率が0%であったことはこれまでの当院の感染対策が有効であったと考える。

3. 今後の研究計画

2021年3月よりCOVID-19ワクチンの接種が開始となっており、また、3月末から、感染流行の第4波と思われる感染拡大がみられている。同じコホート集団の経時的な抗体保有率の推移とともに、職員のワクチン接種後の抗体価の推移など、地域医療におけるCOVID-19感染拡大防止への取り組みについて疫学的フォローアップ調査を予定している。